

「雲南タイ族の年代記」－明朝末期の徳宏州
(雲南省西南部・ムンワン / 隴川) のものがたり－

東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所
クリスチャン・ダニエルス

(2009年4月17日(土)、JICA 研究所国際会議場にて)

1. 前置き

- ① 民族・文化の多様性、その保存・次世代への継承
- ② 民族が文字をもつ意味とは？→自己の文化は文字媒体で伝達しうる
- ③ 自己の歴史を記述することができる。民話・伝説とは異なる年代記。

2. タイ系民族の世界＝タイ文化圏

- ① 雲南は複数の文化圏が重なり合う地域：

北西ではチベット族文化圏

北東では四川・貴州の彝族・ミャオ族地域

西南・東南ではタイ文化圏

- ② タイ諸語を日常的に話す民族は、中国雲南省からヴェトナム、ラオス、タイ王国、ミャンマー北部、及びインドのアッサム州の六カ国に跨って居住している。これをタイ文化圏という。
- ③ タイ文化圏とは国境線によって分断されていない：民族と文化は連続している。
- ④ タイ系民族と非タイ系民族を含む複合文化圏だが、その文化圏はタイ族の言語・文化によって緩やかに統合された歴史がある。
- ⑤ タイ系民族とは？ タイ系民族の自称は Tay、タイ王国の Thai とは異なる集団。李方桂の分類でいう西南タイ諸語の話者である。

- ⑥ 各地タイ系民族の名称

Tay Nā タイ・ヌー族 (シャン族)：中国雲南省徳宏州タイ族・ジンポー族自治州、臨滄地区の耿馬県、臨滄県、双江県及び思茅地区の景谷県など、ミャンマー北部及びミャンマー東北部。ムンマーオ Mäng Maaw 王国 Ko'sam,pi, (麓川平緬宣慰使司) 13 世紀後半～15 世紀半を建設した。

Khamthi Shan カムティーシャン族：ミャンマー最北部のカムティシャン地区及びインドのアッサム州。

Tay Pom タイ・ポム族 : 思茅地区の孟連県に集住する。

Tay Yaa タイ・ヤー族 : 中国雲南省元江ハニ族イ族自治州と新平県

Yuan ユアン族 : タイ王国北部 : ラーンナーLanna 王国 (13 世紀末～1939 年) を建設した。

Khün クン族 : ミャンマー東北部

Lao ラーオ族 : ラオス

Tay Lü タイ・ルー族 : 中国雲南省西双版纳タイ族自治州、ミャンマー東北部、ラオス北部、タイ王国北部 : シプソンパンナーSipsong Panna 王国 (車里宣慰使司) 13 世紀～1950 年 : 雲南省西双版纳を建設した。

黒タイ族 : ヲトナム西北部

白タイ族 : ヲトナム西北部

赤タイ族 : ヲトナム西北部

Thai 族 : タイ王国中部タイ(シャム)語の話者 (タイ文化圏に含まれていない)

⑦ **Tay 族** : 南下した **Tay 族** の祖先+モン・クメール系民族の文化=**Tay 族**

例 : ラーンナーLanna 王国 (13 世紀末～1939 年)

⑧ **Thai 族** : 南下した **Tay** の祖先+クメール族文化+モン族文化=**Thai (シャム) 族**

例 : アユタヤ朝 (1351 年～1767 年) は、アンコール帝国のクメール族とドヴァーラヴァティ一國 (6 世紀～11 世紀) のモン族から文化的影響を受ける。上座仏教の受容にはモン族の影響が大きい。

3. タイ族の政權の特徴

タイ族が政權を建設して優位に立ったことは (1) 軍事組織と (2) 灌漑技術による水田面積の拡大という二つの要因に由来する。

① **Tay 族の政權は盆地を中心に建設された。盆地国家の連合**

ムン (mäng 猛) には ①盆地 ②盆地と山地を合わせた政治単位、という二つの意味がある。

盆地=タイ系民族 : 生業は水田耕作、生産性が高い。

山地=山地民 : モン・クメール系言語、チベット・ビルマ系言語及びミャオ・ヤオ系言語の話者 : 伝統的な生業は焼畑耕作、生産性が低い。

② **タイ族の伝統社会は階層社会** : 貴族と平民

元朝の官僚として雲南に赴任した李京が大徳 7～8 (1303～04) 年に著わした『雲南志略』は、タイ系民族の王位継承について、「酋長死するに、其の子孫に非ずして自ら立つる者あれば、衆は共にこれを撃つ」と記している。

- ③ 統治者（ツァオ）は平民に賦役を課し、平民の中から兵士を徴集する。『百夷伝』には「軍民の分無く、聚まれば則ち軍と為り、散すれば則ち軍と為る」とある。

『百夷伝』1396年、明の初代皇帝朱元璋が緬国と百夷に派遣した二名の使者、銭古訓と李思聡が帰国してから提出した報告書である。

Tay族は元代から中国史料には百夷、白夷、伯夷、(百衣)や擺夷(擺衣)などと漢字表記された。

4. ものがたりの概要：ムンワン Mäng:Wan: (隴川) 王国で王位が奪い取られる事件

- ① 年代記の名称：『ムンマーオ年代記』。

正式表題は、*saa: mǝng: pu: tün: khǎ: mǎng: ko: sam, pi*, (ゴサンピ国の王族世系の歴史)である。(『猛果占璧及猛卯古代諸王史』雲南民族出版社、昆明、1988年に収録)。

著者はムンマーオのタイ族僧侶で、ベーンザーンガー (pën, caang. kaa.) という。年代記の冒頭で、史料を収集して本書を編んだのは乾隆43(1778)年とある。萬曆帝の実録である『明神宗実録』及び『明史』の中国史料も使用する。

- ② ものがたりの概要：ハーイ・ロン (Haay. Long 中国史料では岳鳳) がムンワン王国の王位を篡奪する事件。

ハーイ・ロンは中国内地から行商としてムンワンに住み着いた漢族を父にもっており、ムン・ワンの統治者の記録係りとして登用された。萬曆元(1573)年、主君を殺害して王位を奪い、ムン・ワンの統治者を名乗った。ハーイ・ロンは、ビルマのタウングー朝に忠誠を誓い、近隣の大国であったセンウィー王国と同盟を結び、明王朝に対して軍事攻撃をかけた。

萬曆10(1582)年、ハーイ・ロンはビルマの軍勢を動員してムンナー王国(干崖宣撫司)に攻め入って明王朝から下賜された官印を奪い、主君の母などを捕虜とした。それからハーイ・ロンは、即位したばかりのビルマのタウングー朝国王ナンダバイン (Nan-da-bayin 在位1581~1591年) をそそのかしてセンウィー王国の統治者を殺害し、数十万のビルマ軍勢を明王朝の領土深くに送り込んだ。ビルマ軍はザンダー(盞達)、施甸や順寧を掠めて、姚關まで攻め上ったが、その辺りで明軍に破れた。明軍はビルマ軍をアワまで追撃して降伏させた。萬曆12(1584)年4月、ハーイ・ロン父子は明軍に拿捕され、同年9月乙亥の日、二人は北京で磔刑に処せられた。

5. タイ族の視点を表明する年代記

- ① 明王朝のハーイ・ロンに対する見方

- (一) 中国に対す裏切りである。ハーイ・ロンはもともと中国内地の漢族であるのに、ビルマのタウングー朝の軍勢を雲南に誘導して中国の領土を侵略させたため、謀反を起こした反逆の徒と見做された。
- (二) タイ族君主に対する不忠者である。ハーイ・ロンが受けた恩義を省みず、主君を殺害した振る舞いはタイ族統治者に対する不忠である。

(三) 明王朝に対する欺瞞である。勝手に明王朝の官職（宣撫司）を名乗った。

② タイ族が年代記においてハーイ・ロンどのようにあつかうか

『ムンマーオ年代記』の叙述は、明王朝の記録にみえる事実を含むものの、ハーイ・ロンに関する独自の物語を披露している部分もある。

(一) ハーイ・ロンの治世を空位と見做した。

(二) 王位奪回は中国人の策略によって実現した。

(三) 中国王朝は援助に対して代償を求める。このような意識は、やっとの思いで領地を取り戻したタイ族の統治者が、中国王朝からその領地の一部を買い戻すはめになる記述から読み取れる。

③ タイ族は年代記で自己の歴史に対する見方を後世に伝える

史実の信憑性という点からいえば、タイ族の年代記は中国の史籍ほど正確ではないが、タイ系民族が自己の歴史に対する見方を表現している。

文 献：

飯島明子「北方タイ人諸国」（石井米雄・桜井由躬雄編『新版世界各国史 5 東南アジア史 I 大陸部』山川出版社、1999 年）133～156 頁。

クリスチャン・ダニエルス「東南アジアと東アジアの境界—タイ文化圏の歴史から」

（中見立夫編『境界を越えて—東アジアの周縁から』山川出版社 2002 年）137～189 頁。

クリスチャン・ダニエルス「タイ族は王国の系譜をかく描けり—ハーイ・ロンに対する歴史記憶」
（『アジア遊学』No. 67、2004 年）52～71 頁。